第４回 認知神経心理学研究会開催にあたって

辰巳　格（たつみ　いたる）
東京都老人総合研究所 言語・認知部門

認知神経心理学研究会も今年で４年目になる。今年のセミナーは、認知神経心理学の基礎編ということで、単語の認知実験をする際に必須となっている単語属性の統制の仕方を、その道の手練れに話して頂く。特に、三省堂の単語データベースを買った人で、使い方がいまいち分からないという向きには、制作者の一人である近藤公久氏が、懇切丁寧にデータベースの使い方を教えてくれるはずだ。近頃の単語認知実験は、もう滅多矢鱈と多様な単語属性が出てきて、オーバーフローすると思っている人にも、打ってつけのセミナーだろう。そのほか、中村光氏が一貫性について、伏見貴夫氏が心像性についてやさしく話をしてくれる。何度も聞いていれば、門前の小僧なんとやら、ということもありうるのではないだろうか。

研究会の運営をやっていると、どうも自分のポリシーが定まっていないと感じる。規模をあまり大きくせずに、こぢんまりやっていくのか、それとも拡大路線をとるのか。明らかに最初はこぢんまり路線であったように思う。発表時間を長くとったり、自由に議論できる雰囲気となると、どうしてもこぢんまりとならざるをえない。

しかし、参加者は、ろくに宣伝もしていない割には、確実に増え続けている。だが、演題はほとんど言語に集中していて、やや広がりに欠けるような気がする。参加者の研究分野がもう少し広いと良いのだが、などなどのことを考えると、どうしても右往左往してしまう。また、拡大路線をとるなら、それなりのやり方があるだろう。一度、参加される方々と話し合ってみるのが良いのかもしれない。

今年の参加者はおそらく 70 人くらいになるのではないだろうか。これまでのところ、参加者数は、バブルが崩壊する前の豊葦原瑞穂の国の経済のように右肩上がりである。目下、会場として、どれくらいの規模の会議室を選べばいいのか、迷っている。50 人くらいの会議室の方が何かと便利なのだが、入りきれないかもしれない。少し大きめのところは、研究室から遠いうえ、天井が低くて、スライドが見にくい。

研究会の恒例というのか、目玉というのか、懇親会の方は、一昨年と同じレストランを予約してしまった。料理が美味しく、その割に値段が高くないというのがその理由だ。おそらく超満員だろうから（許してください！）、大変に親密な懇親会になることだろう。場合によっては東京都老人総合研究所関係者は責任をとって遠慮しなければならないかもしれない。どうも食い意地だけで選んでいるようなところがある（赤字になると差額の解消に苦労するので、値段も大事なファクターである）。一昨年はそのレストランのワインをすべて飲み干してしまい、翌日のディスカッションが低調になったきらいがあった。今年は同じことを繰り返さないように、注意しないといけないのだが…。

さて、初回の認知神経心理学研究会は、市川の国立精神神経センターで開催された。第２回が東京都老人総合研究所、第３回は再び国立精神神経センターに戻り、第４回が再度、東京都老人総合研究所で開催される。第５回は、ついに天下の険の箱根を越えて、名古屋大学の筧一彦 教授のところで開催される予定になっている。グルメでグルマンの筧教授のことなので、懇親会には期待がもてそうだ。よもや、みそカツと、みそ煮込みうどん、などということはあるまい。期待しよう。

なお、今年の研究会の総元締めは、伊集院睦雄氏が勤めてくれた。彼の指揮のもと、呉田陽一、佐久間尚子、伏見貴夫の各氏が研究会を支えてくれる。さらに、研究生で美人の誉れ高い渡辺眞澄さん（多摩リハ/名古屋大学大学院）と中越佐知子さん（大久保病院）、それに須賀昌昭さん（フジタ）にも手伝っていただく。彼らの尽力に深謝したい。

連絡先：〒173-0015 **東京都板橋区栄町** 35-2　Tel.03-3964-3241 ext. 3128　e-mail:tatsumi@tmig.or.jp